

# 幼稚園と音楽

ドクトル 三田谷啓氏

次に起る問題は、幼稚園で用ふる楽器である。自分は音楽にかけては、素人と言ふ程に智識の無いものであるが、教育の目的で日本の琴や三味線が用ひられて便利のよいものとは考へ得ぬ。教育の目的には矢張西洋音楽だと信するのである。今日では日本でも、「ハルモニウム」「ピアノ」が、教育の目的で用ゐられて居る。これも日本の楽器で然るべきものがないためであらう。然るに日本で西洋音楽を幼稚園や小學校で用ひらるゝ場合、只教育の方面から見て、如何なる點に注意を拂はれて居るか。これは至極興味ある問題ゆへ、自分も、機があつたら、教師方や又音楽の専門家に意見を聞いて見たいと思つて居る。

西洋音楽の中でも果して幼稚園教育に何が適當であるかが問題である。例ば獨逸國で用ひらるゝ、種々の楽器あれども、幼稚園で群集教育を行ふ場合に逆も斯様のものを最善として用ふるわけには行かぬ。どうしても矢張「ハルモニウム」「ピアノ」か「バイオリン」であらう。フイツシヤアの説によれば、幼稚園の目的には「ワイオリーネ」が一番よいと言ふことである。

「ワイオリーネ」の特徴とするところは、音の性格が適當して居るから小學校並びに幼稚園で用ふるには都合がよい。音は鋭けれども、愛らしい或時はカスル様な音が出るが、又或時は長く響く

「コラール」の性質を帯びた音がする。

尤も此の楽器を幼稚園で教育の目的に用ふる場合は複雑な用ひ方ではいけぬ。單純なものにして、まぎらはしからぬ様にせねばならぬ。

フイツシヤアの説によると、今日小學校や幼稚園で主として使用されるゝところの「クラウイアー」及び「ハルモニウム」は各種の唱歌楽器として用ひられて居るが缺點が少からずあると言ふことである。缺點の主なものば、各個の音が「フェルスチンムン」のためである。兒童は容易に、不純の唱歌に馴れてしまふ。「クラウイアー」にありては、音がチギン／＼に響く、これを適當に使用せんとならば、全部の「ベクライトウング」を行はればならぬ。併しそれは幼稚園の兒童には無益のことである。

「ハルモニウム」の音は、あまり重々しい。若しこれを快濶にせんにば特別の技術を要するのである。「クラウイアー」に不純性の音が出ると言つたが、これは矢張「ハルモニウム」にも餘程ある。

そこで「フイツシヤア」の如きは、幼稚園の先生になる人のために「ワイオリーネ」の講習會を開くやうにしたらよからうと言つて居る。(雜誌「音楽界」第百六十一號より轉載、抄)